

墓碑

角辻 会長 逝く・・・

科学暦
宇宙語

瓦版

第七号(追悼特集号)
科学暦八年四月二十五日
発行 宇宙語・科学暦普及協会

60G0S0N
8 T 04 25

哀悼

北村 弘江理事(平成十九年九月三日逝去) 行年六十歳
会歌「宇宙語」 作詞・作曲者
中村 せつさん(平成十九年九月十六日逝去) 行年九十五歳
中村顧問「ご母堂」
瓦版六号「聞き書き」昔の大阪」の語り手



趣味
コーラス(コリード・ローレル・混声、わその・パッカス・他)
芦屋天文同好会設立(後の宝塚天文同好会に発展)
テニス・ゴルフ・スキー・野鳥観察・読書・旅行など

- S37.3 大阪大学医学部 卒業
 - S42.3 大阪大学医学部大学院 終了 医学博士号取得(顔の表情の筋電図学研究)
 - S46.3 大阪大学医学部 講師(非常勤)
 - S46.8 角辻診療所 開設 所長
 - S47.4 角辻総合人間科学研究所 設立 所長
- 主な著書
「人はなぜ笑うのか」 講談社
「笑いのちから - ストレス時代の快笑学 -」 家の光協会
「冗談の通じる人、通じない人 - 笑いの実践講座 -」 法研
「臨床精神医学」(分担執筆)
「呼吸の生理学 16. 笑いと呼吸」(分担執筆)
他 医学論文 多数

角辻 豊

昭和十二年十一月十二日誕生
(五九銀河年二四恒星年九九九新銀河年九九三七地球年)
平成十九年五月十一日死去
(六〇銀河年〇恒星年〇新銀河年七地球年)

弔辞

淀川キリスト教病院
名誉院長 柏木 哲夫

角辻 豊 先生
先生のご逝去の報に接し、まさか「とやほり」という二つの思いが同時に起こりました。

先日、ご入院先の敬任会病院へお見舞いに伺った時、お声はでないものの、手の平での筆談で、とても前向きな先生のお姿を拝見し、まだまだ頑張ってくださいという思いを持ちましたので、まさに「まさか」でした。しかし、肺がんが次第に進んでいると奥様から「やほり」との思いもいたりました。

先生との思い出は沢山あります。私が阪大精神科に入学した時、先生はすでに筋電図グループで、かの有名な角辻電極を用いて顔面表情筋の研究をしておられ、ずいぶん多くのことを教えて頂きました。少しお手伝いしただけに、英文の論文に共同執筆者として、私の名を入れて下さったことをとても嬉しく思い出します。

学会でいるんな所へ一緒にしました。北海道で温泉につきながら、先生の人生観を聞かせていただいたのも、懐かしい思い出です。十年ばかり前にはじめてゴルフでは、私のマナーの先生でした。初めてコースに出た時、同じ組だった先生が懇切丁寧なアドバイスをしてくださいました。すこし腕が上がった時、奥様も一緒に芦屋カントリークラブでプレーしたことが懐かしく思い出されます。

取り組んでおられた科学暦の話、笑いに関する研究の話などを懐かしく思い出します。先生のお話のすばらしい笑顔にもう接することが出来ないうと思つと本当に淋しいです。

先生と私の共通の先輩、阪大医学部で医学概論を教えておられた中川米造先生が亡くなられた前に言われた言葉があります。「生命といふものは違つ。生命は終焉をむかへるが、その人のいのちは永遠に生き続ける。・・・と。」私達は先生のお話をもう直接伺いすることは出来ませんが、先生のお話の「いのち」を大切にしたいと思つています。先生、本当に長い間いろいろごさいます。先生が残りたくださつた先生の「いのち」を大切にしたいと思つています。先生どうか安らかにねむりください。簡単ですがお別れのことばといたします。

先生 さようなら

二〇〇七年(科学暦 七年)の
長い夏

顧問 中村 允人

二〇〇七年(科学暦 七年)の夏は九月になっても真夏の暑さで、本当に長い夏だった。

しかも私にとっては何という夏だったろう。わずか四ヶ月あまりの間に自分に最も近い三人もの死に遭遇した。

先ず五月十一日に五十年間近くも一番親しい友人として家族ぐるみのつき合いであった角辻会長を喪い、九月三日には三十年来の友人で、この会の役員でもあった北村弘江さんが逝き、そして九月十六日には自分の母親を見送った。

母は前号の瓦版に「聞き書き：むかしの大阪」を掲載させてもらった。

彼女は九十五歳六ヶ月あまりの生涯を、最後の三ヶ月間を除いてはそれほど不満を感じることもなく生きたと思うが、角辻君の七十歳目前、弘江さんの六十歳直後の死はいかにも早すぎる。どうしてこんなに若く逝ったのかと思ってしまう。

角辻君の闘病生活は二年近く続いた。最初の頸部リンパ節転移巢の切除手術から、放射線治療、気管切開術、完全経管栄養に至るまで、すべての経過を見て来たが、その間で一番強く感じたのは、見舞ったわれわれに対する彼自身の心遣いである。

一般に精神科医はその職業的特技として会話術に優れ、聞き上手で人をそらさないものだ。もちろん角辻君も例外ではない。

しかし、何も飲めない、食べられない、しゃべれない、しかもしょつちゅう咳が出て疲がからんで吸引してもらわなくてはならない、こんな状態で見舞客の話にニコニコあいつちをうち、言いたいことがあれば傍に居る克子さんの手をとって手のひらに指でかな文字を書いて読んでもらう。面白ければ一緒に笑う(声は出せないけれど)。

この真似は普通一般人にはまず不可能だ。少なくとも私にはとても出来ない。患者としての忍耐力、出来る限り人を不快にさせない気配り、何より人間としての強靱な精神力、末期になっても変わるものなかつた彼のこれらの「品格」にはつくづく感服させられた。

それにしても一つだけ疑問に思うことがある。声が出せない時に言葉を伝えるには、何時も傍に置いてあつたホワイトボードにサインペンで文章を書く方がずっと便利なのに、あの特別な「指話」を使っていたのは、愛する克子さんの手にいつも触れていたというひそかな願望のあらわれだったのだろうか? これを聞いて彼が天国であの大声で笑っているような気がする。

角辻先生に纏わる言葉たち

北村肇流角辻先生追悼文

使い込まれた
往診靴

「角辻さんが弘江さんと呼んだんや」は中村允人先生のご友人の田川律氏の言葉です。私の家内、北村弘江は一年間の闘病の末、本年九月に亡くなりました。彼女は宇科連の正式の役員ではなかったようですが、その幹部の会合(理事会?)には呼ばれて出席していました。そればかりではなく、私たち夫婦は中村・角辻両ご夫妻と二十年以上に亘り三十回以上の国内外への旅行を楽しませて戴くなど大変お世話になってきましたので、角辻先生は弘江にとつても一番親しい人物の一人でした。本年十月末に、北村弘江お別れ会を開催しましたが、冒頭の言葉はそこに出席して下さった田川氏が会の後で私におっしゃいました。

確かに弘江と私は、角辻先生の豪放磊落に見えるが実は)心細やかな優しさで周りの人物をいつもハツピーにさせる明るさには絶大なる魅力を感じていました。弘江は(絶私を足蹴にして)角辻先生を追い残して行ったのでしょつか? 一人残された私は、何を夢見て生きれば

良いか分からず、未だに暗中模索・五里霧中……。

「我々はときおり、悪夢から目覚めた瞬間に自らを祝福することがある。我々はおそらく、死んだその瞬間を自ら祝福することである。」は偉人(N・ホーソン)の言葉です。

角辻先生、そちらは如何ですか? いつも優しい風が吹き、美しい花が咲き誇り、悩み・苦しみのない世界……と聞いたことがあります。本当ですか? そちらでも「笑い」の研究やっていますか? 確かにこの世はままならず、(それこそ悪夢みたいに)頭を抱えることもありませぬ。だからこそ(この世では)「笑い」に大いなる意義がある……と私は思えるのですが……。

「あらゆる排泄は快感を伴つ」は角辻先生が、私が主宰するサロンの会合のときにおっしゃった言葉です。私には非常に印象的な言葉で、ずっと頭に引っかかっています。後日、先生にこの話をしたところ、「首から下の話やでえ」とおっしゃいましたが、通常の人物ではとても出てこない言葉で、こんな先生のユニークな発想が私は大好きでした。「頭の悪い奴には宇宙語は分からんやろうなあ」は角辻先生が宇科連の第一回会合の後で、誰に言うでもなく(独り言で)おっしゃった言葉です。その時、私はすぐ横にいましたのでしつかり聞き、今でも覚えて

います。

私は、角辻先生の（大学で）三年後輩です。先生の前向きな姿勢、周りを明るくするサービスマン精神、広い世界観と博識ぶりなど私にはないもので、この歳になっても尊敬の念を持ち続けています。角辻先生は私の自慢の先輩です。ただし、宇宙語に関しては、私は頭が悪く未だ意義が分かりません。特にオカルトUに至ってはさっぱり。そのうち、私もそちらの世界へ行きますので、ゆつくり教えて戴きたいと思えます。え？そちらでは宇宙語は要らないって？

「角辻先生、大変お世話になりました。ありがとうございました。現在お世話になっている筈の弘江をよろしく。近道中にこちらへ行く私につきましても、よろしくお願いいたします。」は現在の私の偽らざる言葉です。

七年十一月

北村 肇



大学入学後の5月



精神科の名医も

江村 和朗

あるとき、上海にいる後任のA氏から大阪の自宅に突然電話があった。

「実は、娘がこのところ精神的にダメージを受け、やや危険な状態にあるのです。どなたか精神科のよいお医者さんに知り合いがおられたら紹介して下さいませんか。」

早速、角辻 豊先生を紹介することにした。

A氏は上海から一時帰国され、三重県亀山市のご自宅からご令室、ご令嬢とともに大阪へ、市内のホテルのロビーで落ち合い、一緒に高槻市の角辻診療所に向いた。

診療所に着くと、待合室には患者さん数名があられたが、予約しであったのですねに名前が呼ばれ、ご令嬢は診察室へ。待つことしばし、やがて待合室に出てこ

られた。ややあつて、角辻先生から、A氏と私に、「ちよつと話したいことがあるので、診察室に入ってほしい。」と言われた。二人ともドキッとした。ご令嬢の身の上にか重大なことがあるのかと思つた。

二人で恐る恐る診察室に入ると、病状のことには一言も触れず、延々と科学暦の講義が始まつた。まるで催眠術にかかつたよう。最後に、「こういう活動をしていますので、是非会員になつてほしい。」と言われ、A氏は早速、金千円を支払つて会員となられ今日に至っている。

しばらくしてA氏に、「その後お嬢様の様子はどうですか？」と伺うと、「いや、娘は角辻先生のお顔を見ただけですつかり良くなつたようです。頂いた薬も飲んでいませぬ。」とのこと。早速、角辻先生に、「A氏のお嬢様は角辻先生のお顔を見ただけですつかり治つたようですよ。さすが名医ですね。しかし、そんなに早く治してしまつたら、患者さんには喜ばれるかも知れませぬが、あまり儲けにはならないではありませんか。」と申し上げると、「そうや、名医は儲からんのや。しかし、内科を併設しているのだから、内科の方でなんとか稼いでいる。」というところで、名医の生活も成り立っているようであつた。

A氏は、角辻先生の葬儀に参列できなかつたことを今でも悔やんでおられる。

さて、話題は変わるが、かなり以前に、NHKテレビの「笑い」をテーマにした番組に出演されたことがあつた。家内とともに、自宅でその番組を拝見した。キャスターの質問に答える形で構成され、「人間の笑い方にはどのようなものがあるのか」とか、「どういふときに人間はアツハツと笑うのか」、さらに「最近、猿も笑うといふことが発見されたが、アツハツとは笑わない」といつたような内容だつたように記憶している。既に、先生の笑いに関する名著を拜読していたので、講義は極めてよく理解できたが、何となくさうさなく、頬が引きつっているような印象を受けた。そこで先生に、「あの番組観ましたが、かなり緊張しておられましたね。」と申し上げると、「そうや、番組収録のとき、ディレクターが何度もNGを出し、繰り返し繰り返し同じことを喋っているうちに、段々面白くなつてきて、また今度もダメかと思つているうちに、ああなつてしまった。」と言つておられた。

精神科の名医もご自身の精神状態を安定に保つことは難しかったのかと思われる。ましてや専門外のご自身の内科的症状を改善することが出来ず、この世に見切りをつけて、足早に天国に昇つて行かれたような気がする。平安。

『角辻豊さん いのちの証し』

角尾 昌彦

私が始めて角辻豊さんに出会ったのは五十年前の科学暦九九五七年（昭和三十二年）四月、大阪の北畠にあった大阪大学南校の講堂、南校コーラスの入部勧誘デモ演奏の後でした。

それ以来、彼は、毎日昼休みの南校コーラスと毎週土曜日午後の大阪女子大学とのコーリード合唱団を通じ、コーラス、フォークダンス、ピクニック、スポーツなど、よき先輩としてリードしてくれました。豊さんと克子さんは眩しいばかりのキャプトルで後輩の羨望の的でした。

私は当時、豊さんとは家が近かったので時々往来していました。当時のことで未だに脳裏を離れないのは、コーリードの豊島（てしま）演奏旅行と、雪降り積もる芦屋の奥池での飯盒炊きさんと野郎ばかりのライندگانです。

大学卒業後、コーリード合唱団の集まりで、豊さんはいいつも中心でした。彼の企画力、アイディア、演出は、必ずば抜けていました。彼が企画したコーリードテニス大会で、私は始めて硬式テニスに出会いました。テニスは、私の数度に及ぶアラビア三ヶ国への業務出張で、また、会社の仲間と熱い汗を流そうと始めた生駒テニスの会で大いに役立ちました。



堀りも乗れるだけ乗って曲がりくねった島の道を行く
コーリード豊島演奏旅行（大学2年）

定年退職後は、豊さんの企画運営によるコーラスの集まり、漢遊会、精嵐会、科学暦・宇宙語の集まりで、私は彼と密に付き合うようになりました。その間に教えられ、動機付けられたことは数え切れません。

豊さんのずば抜けた能力は、集まった人をひと時も退屈させない機知、話力、サービスマン精神、話題の豊かさ、実行力です。この能力は彼の天賦の才能ですが、その一部でも見習うよう努力したいと思います。今更ながら彼の精神的な遺産の大きさに驚いています。

豊さんの生命は古稀目前で途絶えたものの、彼の生み出したACORコーリードのコーラスの集い、漢遊会、精嵐会、科学暦・宇宙語のうち幾つかは続け、その中で、豊さんのいのちの証しとなる活動を少しでも繋いで行きたいと思っています。



大学受験票の写真

医学と天文学と

早川 泉

故人とは大阪府立豊中高校で一緒になった。入学して日も浅いころに、学年全員の百メートル走の計時があつて一番になったのが奇しくも豊君だった。学力テストも一番だが二番だったから、角辻という珍しい苗字のせいもあつて、強い印象が残った。

文武ともに優秀であつたが、くそ真面目に取り組むという風ではなく、いつも一割ほど余力を残して物事に対していたように思う。

長じて、医学の道に進まれたが、医学を修めるだけでも難事なのに、天文学を終生の友にされたのはこの余裕なのかもしれない。

立花隆さんの「天皇と東大」なる本に日本の自然科学と人文科学の草創期のこと記されてある。自然科学の大学の東校の中心は医学であつたが、人文の大学南校の中心は法学でも文学でもなく天文学であつたといふのである。なるほど、天の摂理は法学や文学に優先する。する

と、豊君は自然・人文双方の中心学問を持ち前の余裕で修めたことになるのだろう。

筆者と故人は少年のころから類似点は皆無であつたが、なんとなく気が合つて終生交誼を忝くした。お互いに連れ合いにも話すのを憚られるような話題を共有した仲であつた。彼が精神科医として人助けに精励するのに反して、筆者は企業の再建社長業に従事した。法人としての企業の延命には幾度か成功したもの、その過程で人である従業員や家族の人生を心ならずも捻じ曲げたり、不幸に落とし込んだりしたこと、思いを致すとき、いったい俺はなにをしているのかと忸怩たる思いにとらわれたことも多い。その都度、彼の慰めと励まし言葉がどれほど救いになったことが...

近年、各方面で不祥事が続発して、「高い地位の人間は自分の社会的責任も同時に持つべき」というノーブルレスオブリージュなる単語が強調される。豊君は至極自然体で、おそろしく意識しないで、ノーブルレスオブリージュを実践していた数少ない人たちのひとりだったと今にして思う。こんな人物の早世は社会的な損失だが、定命には抗し得なかつた。確実なことなどなにひとつしてないこの世であるが、唯一確実なのはみんな時差こそあれ、彼岸で一緒になることである。その日まで待っていて欲しい。こちらにも積もる話もあるからね。

地研で得た親友・角辻豊君の思い出

河崎 博夫

豊高に入学した直後、中学の先輩故首藤さんより「夜間屋上で天体観測をしたり面白いぞ」と声をかけられ地球物理研究会(地研)に入部することを決めた。

そこでその後の人生で貴重な友人となる角辻、牧野、寺沢の三人とめぐり会った。天才的な頭脳を有する牧野、快活で人情味厚い寺沢、すぐやけになる嫌いがある一方で交渉能力もある小生と、およそ性格や考え方の異なる三人を上手にまとめ、然るべき方向に導いてくれたのが努力家で気配りの出来る角辻であった。

高校在学中始めて福知山線にデイズル車が導入された時、四人で篠山口まで出掛け、小学校の校庭で鉄棒で遊びもどつて来るという四時間の旅をしたが、今から想えばこの時にお互いの気持ちの通い合う間柄が生まれたのではないかと思われてならない。

小生の結婚式でこの四人の間柄を寺沢が角辻が首相、故牧野が大蔵大臣、自分が防衛長官、小生が外務大臣といったのは地研での四人の役割を誠に上手く云ったものと感じる次第である。

寺沢と小生が浪人した時、夏に牧野と一緒に若狭高浜にキャンプに誘ってくれ、勉学の意欲を持つ様に

仕向けてくれたのも角辻の心のやさしさがなせるわざと思っている。

四人が社会に出た後、牧野が早くこの世を去り、残された三人が離ればなれに住みながら、長い親しい付き合いが続いたのも角辻がいたおかげと思っている。

四十才台なかばで中近東での二年半にわたる単身赴任の後、高校卒業後始めて大阪にもどつて来た時テニスに呼んでくれ、小生が角辻にとてもかなわない腕なのに何度もゲームを続けたのを見て「やけなくなつたね」と言い、昔と随分変わつて辛抱強くなつたのもサラリーマン生活のおかげだね、と云つていたのが妙に記憶に残る。

その時期寺沢も偶々大阪勤務で角辻の芦屋カントリーでゴルフをし、その後芦屋の街で夕食をしたのもなつかしい思い出のひとつである。

最後に角辻と会つたのは、平成一八年四月、角辻が尽力した高校卒業五十年記念同期会に出席した帰途、角辻夫人の特別のはからいで寺沢と二人で病室に角辻をたずね、約束の時間を大幅にこえて角辻夫人を交え色々と思ひ出話をした時であった。その際、生花と共に花瓶を持参したが、花瓶を持つて見舞いに来たのは貴男達二人だけと角辻夫人に言われたのも妙に記憶に残っている出来事である。

角辻の葬儀に参列した帰途、寺沢

と二人で我々地研四人組は廊下に貼り出された実力テストの席次順に彼岸に行くね、と残された悲しさをまぎらわす為に話し合った。

合掌



豊中高校「地球物理研究会」

精神に嵐を起こす会

昭和六十一年一月 発足

第一回参加者 十四名

現在も活動継続中

宇宙語・科学暦普及協会(宇科連)

科学暦は西暦二〇〇〇年問題から着想して創作。つづいて宇宙語を立案し、普及協会を設立する。

せんせ、こんにちわ

ときどき、在りし日のせんせを思い出すことがあります。年齢は八十五歳を重ねても、まだ、生死(しようじ)に対する疑問がありまして、たくさんお尋ねしたいことがあります。

今になつては、もう、せんせへの問いかけは、できせせんから、自問自答……おっと！四字熟語の終わりの字は、せんせから頂戴できないことを改めて確認せねばなりません。無常という名の時間は回帰してくれませぬ。

せんせ、わたくしは最近、年下の方への追悼の辞を述べさせられる機会が多いんです。そのとき、ついつい「あ、良かったね」と亡き人に向かつて口走つてしまします。もう苦しまなくともいい……。これぞ、人間が等 ひと しなみに受け取ることで出来る涅槃というものなのでしょうから。

こんなわたしなりの永訣の言葉を「不謹慎！」だと詰 なじめる向きも時々ありますが、心からそう言わずにはおれない性(たち)なんです。仕方ないんです。

「せんせ、良かったですね。」僕は真実そう思っています。

人間の現(うつ)つ)の世界にある愛別離苦の悲哀を人並みに抱きながら、あえてせんせへのこあいさつといたします。

もし、次の世界があつて、せんせとの再開の機会が得られるとすれば、「精風会」の中では、わたしがトップであるうことを自認しながら、「せんせ、ちょっと待ってくださいね。そうそう、長くはお待たせはいたしませんから。」

宮崎 修二朗

拝啓

角辻先生。今夜は仲秋の名月です。毎年の習わしで月光の曲をバツクグランドにして月を見上げています。異次元の星の世界へ旅立たれた角辻先生は、どの星におられるのでしょうか。ニブス（飲めず、喋れず、食べられず）の掟をようやく解かれ、そちらのお仲間と杯をかたむけ阿々大笑されておられることでしょうか。お顔が目に浮かぶようです。

初めてのお見舞いで、手術後のお首に目がいくと、「ネックレスつけているんですよ」と笑わせてくれましたね。それは痛々しくも、数珠玉を貫いたようにポコンポコンと肉が盛り上がったネックレスでした。その後のお見舞いでも病室とは思えない明るい雰囲気でした。いつものプラス指向でマイノイドコントロールされ、さすがが精神科医師だと尊敬しました。療養中の病状レターを拝見しても病気と共生し、しっかりとご自身を観察し、生きることにへの執着のすさまじさに感じ入りました。不謹慎ですが病状経過レポートを心待ちに一喜一憂しておりました。先生のたくさんの応援団のどなたもが奇跡の起きることを信じていたのでは。残念です、とつても。

克子さん健気です。立派です。先生の手となり足となり、そして

口となって看病された克子さんが、ある時言われました。「そばに居てくれるだけでいいんです」と。胸にツンときました。それでも悲しいかな、先生の苦しみが解かれることを一番に望まれておられたのも克子さんご自身でしょう。いずれ皆そちらへ旅立ちます。克子さんもまた。でも先生、しばらくはご辛抱下さい。当分の間は克子さんを解放して、見守って下さいあげて下さい。特等席の蓮の葉の半座を空けて、首を長くしてお待ちになって下さい。合掌

坂野 訓子



H18年1月13日読売新聞夕刊

天国に思いを寄せて

田中 隆子

思えば、ちょうど三十年(私の約半生)をコーラス、テニス、ゴルフ、

そして勉強会と実に多くの場所で、先生と関わらせていただきました。特に最後の約十年、奥池の家で、月に一度、夜十一時頃まで、アカペラコーラスにふけていた時の事がなつかしく思い出されます。

楽譜を忘れたり失くしたりしていても、決していやがらずに、マメにコピーをして下さり、本当に今でも頭の下がる思い出で一杯です。

大らかで、くっつくのない人柄、いつでもユーモラスで何気ない言葉が人を笑わせ、人のこころを温かくし、いろいろ勇気づけられたものです。

また、テニスクラブでは、先生一人に女性十人が取り囲んでいても決してヒケを取らない程、充分に存在感にあふれ、いつも大声でおしゃべりを楽しんだものです。

先生は人より、ほんの少し短かったけれど、充分に沢山の業績を残し、沢山の人を喜ばせ、内容の濃い人生だったのではないでしょう。

最後に、病気とわかってからも、御殿場のゴルフを一緒に、夜、ホテルのカラオケで歌われた先生の心のこもった歌声が今でもジーンと心に焼きついてはなれませぬ。

本当は、もっと、もっと、もっと生きていてほしかった。

角辻先生と私

先生とは昭和五十年に施主と大林のサラリーマンでお会いさせて戴いたのですが、当時の記憶は全くなく、5年ほど前に補修のお話でお伺いしてから色々なチャンスをお戴きまして、感謝の一語につきまします。(多分、奥様の口添えが有ったと思います)

これは私の勝手な想像ですが、時間(暦)と言葉と、残り、通信(地磁気)を制御したら、世界をコントロール出来るのではないかと気がきました。が、先生にお聞き出来ず非常に残念です。

中秋の名月をみて、あ！と先生を思い出し、宇宙創造の解説が有れば・・・と思います。

今まで、社会の表裏(海外を含めて)を見てきた人間には、きわめて新鮮で、宇宙、言語、文学等恥ずかしい位知らなくて申し訳なく、(工学部・機械科卒のため、人間に合理的なもの大好きです)、古事記を教えて戴いて、「人間は進歩していない」ことを知りましたが、それでも色々なことに挑戦される先生を見習いまして、予定は来年のことまでも決めていきます。

取り留めの無いことで申し訳ないのですが、先生もおっしゃっておられました、「あの世はない、この世で精一杯やる」を実行する覚悟でいます。

大和田 勝啓 拜

ひらめき人・角辻 豊さん

藤田 昭彦

角辻豊さんの死は、一年半に及ぶご本人とご家族の長くて厳しい闘病があったことにご同情申し上げるとしても、やはり我々には早過ぎる「永眠でした」。

医師なので我々は角辻先生とお呼びしていましたが、「さんづけでよろしい」というご本人の声が聞こえてくるので、そうさせていただけません。

私は宇科連に関しては、角辻さんから「名前が多いほうがいいので、会費要りませんから入会したこと」と言われ、会員の自覚もないまま、実際出席したのは、角辻さんが闘病生活に入られた後初めて公の場に顔を出された06年9月（と記憶）に芦屋の大原集会所での集まり一回だけでした。

角辻さんとのつながりは、私の妻がテニス仲間であったことからです。角辻さんは「精神に嵐を巻き起こす」狙いの「精風会」を主宰しておられ、そこで私が北朝鮮に行った話をしたのが最初でした。

当時、私は新聞記者で、マレーシア、ミャンマー、ケニアなど海外取材の度に話を求められ、最近では9・11テロの陰謀、忘年会では、クリスマス前の12日間「合唱、アレマ？記念じゃんけんレースなど、普通なら「アホか」といわれそつな企画も「オモロイ」と断行されました。

H12年10月22日毎日新聞



科学暦(上)と会旗(左;宇宙語、右;科学暦)



96年夏、「笑いのちから・ストレス時代の快笑学」を出版されたとき、新聞の「新ひらめき人」と題した欄に登場していただきました。人の笑いを科学的にとらえるため、顔の表情筋に電極を付けて「顔電図」を描くなど、見事な着想、「ひらめき」の人でした。

角辻さん主宰の「漢遊会」にも私は毎月出席しました。IT用語が外来語をカタカナにしただけで難解なので、お年寄りにも分かる漢字言葉に変える試みでした。宇科連もそうですが、これも独特の発想「ひらめき」によるものです。肉付けして完成させる時間がなかったことが惜しまれてなりません。

そんなんやってみなわからへん

科学暦九九八六年（昭和六十一年）、ハレー彗星が回帰しました。このハレー彗星の観望をきっかけに先生の提案で始まった天文同好会の活動も、今では二五〇回を超えました。これも、先生の尽きることのない天文への強い興味・関心のエネルギーが支えて下さったものと、心から感謝しています。

先生とは、科学暦九九〇年七月のハワイ島での日食観察、火星や土星が月に隠される惑星食、紀州のみかん星の「甲山食」(カノープスが十二月三十一日に甲山の中腹に入り、しばらくして出てくるのを観察して二人で勝手に名付けました)など、数え切れないほどの星空観察を楽しみました。

中でも忘れられないのは、科学暦九九四年（平成六年）七月のことです。シューメーカー・レーヴィー第9彗星（SO9）が二十一箇の破片になって木星の裏側に次々に衝突するという数千年に一回の出来事でした。

この衝突では、小さな望遠鏡で見ても認められるような変化は起こらないというのが大方の予想でした。

「そんなん見てみなわからへん」と、先生の一言。「何にもみえへんやろに・・・」と、しびしび天文台へ行き、のぞいてみてびっくり仰天！

「え！この黒いのなんや！」

木星面の黒い斑紋（衝突痕）が目に見え込んできました。しばらく信じていることができず、「先生、ひょっとしたら衛星の影かもしれませんよ」と天文雑誌で衛星の陰影でないことを確認するほどでした。

しばらくして興奮がおさまると同時に、単なる予想にとらわれてしまつても見たり行動したりしている自分が恥ずかしくなりました。

先生には、自然観察の本当の面白さを教えていただきました。

これからも「そんなんやってみなわからへん」の心を持ち続けて、多くの子どもたちに先生の言葉を伝えていきます。

副会長 安積 聖夫

角辻

豊さんを偲ぶ
事務局長 阪口 柴山

角辻さん(患者の立場からは角辻先生は、私の人生全般の師、コーラスの仲間、持病の主治医、私が絶賛した科学暦の創始者でした。ご本人はいつも笑みを絶やさず、まわりも笑顔の人達ばかり。精神科学や笑いについての権威者でありながら、お高くとまるところまるでなし。本当に得がたいお人でした。人それぞれに天寿あれど、こんなに早くのお別れになるとは。残念至極、寂しい限りです。

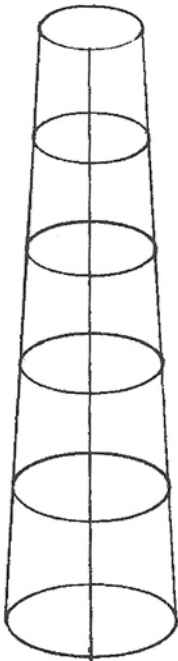
些細なエピソードを記します。大阪厚生年金会館にて、コーラス仲間数人が、入場待ちの列に並んでいた。令夫人克子さんも一緒でした。角辻さんが、一寸抜けるよ、順番む、とニコニコ顔で退散。数分で戻ってこられた。レストランでビールを一本飲んできた、と。さすが角辻さんだ、と全員笑いでお迎え。楽しい雰囲気周りに溢れた次第です。他にも思い出が多々ございます。角辻さん。暫しお待ちください。私も、そんなにお待たせせず、追いかけることとなるでしょう。

科学暦のことを、私は、紀年法においてのメートル法だ、と申上げ、角辻さんの賛同を得ました。メートル法は西暦一八七五年に創案された。然るに二〇〇七年においても普及はまだまだで、欧州連合は、連合王国とアイルランドのメートル法

猛反対に勝てず、両国でのヤード・ポンド法を残した。これまで通り、ロンドンでのピールの注文はパイントです。科学暦の普及速度も同様でしょう。角辻さんの遺志をこれから何世代も引継いでいかなばなりません。彼岸にも普及協会の支部をとの思いです。角辻さん、ご一緒にやってみよう。ついつい西暦を使ってしまいました。ゴメンナサイ。

科学暦 七年九月十四日
合掌

“イメージを建てる”



株式会社
灘工務店

〒541-0046
大阪市中央区平野町1-4-1
TEL 06-6228-0126
FAX 06-6228-0742

角辻診療所 その後
H19年9月



「角辻 豊 遺稿集」(豊中高校同期生が作成 実費で発売予定)
「おもしろ学問人生 角辻 豊 編」
NHKのビデオ・DVD
「特集 角辻 豊 先生を偲ぶ」
大精診ニュース別冊
ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

科学暦七年度行事報告

- 一、7月27日、中村顧問宅にて、瓦版6号の発行(三千通) 発送(二〇二三通)
- 二、理事の異動 江村、山崎、北村弘江の各氏は業務多忙などで退任。会長以外の現理事は、安積、角辻克子、中村、原田、角尾、阪口の六氏。なお、山崎氏は当会の法律顧問をつとめる。
- 三、次号瓦版は、前会長追悼特輯号とする。
- 四、新会長角辻格氏の就任は、八年度の適時とする予定。
- 五、七年度総会 九月七日(金)「大原集会所」(JR 芦屋駅北側百mで開催された。
- * 角辻前会長と北村前理事へ黙祷を捧げた。
- * 瓦版への前会長を偲ぶ原稿を募った。
- * 安積氏による講話
地球は不思議な星だ。その生誕から内部活動や地震について。
- 六、その他

科学暦八年度行事予定

理事会 六月二十八日(土) 中村氏宅
総会 九月五日(金)午後六時
芦屋市上宮川文化センター

会報に掲載の広告募集

次号に掲載いたします。
一頁の五分の一 5,000円
十分の一 3,000円
お申込は事務局まで。

科学暦 宇宙語普及協会事務局

芦屋市奥池町二十二 一八
角辻総合人間科学研究所 気付
電話 〇七九七・三八・〇一一一

編集人 安積 聖夫
科学暦八年四月二十五日